夕刊 磐城新聞
六月二十一日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

三十六の手習

村田慶一

三

それで困りぬいたあげく漸く斷然勇を起してお宅の玄關を訪づれた譯です。今まで幾度この玄關の前を素通りにしたかわかりません。どうか、さやうなわけですから、ソロバンと字を敎へて頂きたく、永く面倒を見てやつて下さい』と涙ながらに訴へるのであつた

私はこれを聞いて、まさか氏がそんな人であつたとは夢にも思はなかつたので驚愕の外なかつたが、その苦衷にはいたく同情もし、その熱心さには全く動かされてしまつた、そこで早速よろこんでその希望にそうやうお引受したのである

さて、氏の履歴はと言へばかうだ。生地は埼玉縣の北西部利根川の近傍であるが、齢八、九歳にして郷里の小學校一年を修めたまゝ兩親に連れられ上京したのであつた。父はその後工場に働いてゐたが、酒と賭博に耽り、從つて子供の敎育などにはあまり注意しなかつたらしく東京の學校にも入學させなかつた。その上父親は上京後、三四年で病死したので、急に働き手を失つた一家は結局母と氏が職業に就かねばならなくなつた。即ち母親は女工となり氏は川口近在の機場へ徒弟奉公に出たのである

氏の主人は最初は夜學に通はす約束をしたのだが、行つてみると案に相違の酷使の一方で、勉學等許してはくれなかつた、それで氏の向學心もいつしか挫かれて、たゞ命これ從ふといふ態度にならされてしまつたが幸にも數年にしてこの機場も衰運となり、また一方世界大戰の產業全盛期に遭遇するや、母の勸める工場も人手を必要とするところから、氏も呼び戾されて共に雇はれることになつたこれが氏の二十歳の時であり、この工場が今日氏の勤める會社である

忠實な働き振りはやがて認められ拔擢されて、學歷なくとも工場の職員となつたのである

現在、氏の家庭は勞苦を共にした母とそれに妻子を合せて一家四人の安樂な生計である。而も尙、前途の希望は洋々たるものがあつて、齢三十を起して再び勉學の志を起し、光輝ある未來を胸底に抱いてゐる、眞にその意氣や賞すべきものがある

私がT氏の學習指導に當つて特に感ずるところは、我々が社會に出て働いて行く場合、人格と職業的熟練さへ具備してをれば、たとひ學校敎育を受けなかつた人でも生活には困らないといふことである。高等敎育を受けた人々さへその敎育の爲に拂つた甚大な費用と時間と努力をば空虛なものにしてしまふことが多くある今日、T氏の生活に較べて考へて見ると、學校敎育の缺陷と云ふやうなものがしきりに思はれる

磐城歌壇

新妻久滿夫選

『梅雨』 長 子

○梅雨に入れど雨の降らぬをかこちつゝ、父と山田に晝餉とりけり
○夕暮に降り出でし梅雨の夜に入りぬ、家をめぐりて蛙啼きつゝ
○突き拔けし若竹の秀に降る雨の、梅雨とし見れば佗しきものか
○梅雨晴を入れ替へやりし敷藁に、羽ばたき廻る家の鷄ども
○梅雨時の厨の黴のおのづから、殖ゆるに似たるわが惱みかな
○土に活くるわが生業の昨日けふ、とみに忙しも田植近づく

小評 著しい進境を見せてゐる。忙中に居て一方かういふ靜寂な心境を味はつてゐられる。作者は幸福な人である。一段の精進を望む。第六首上の句は序の歌としたのであらうが失敗してゐる。歌の序は少々黴臭い方法であるが、上手にゆけば非常に效果のある場合もある。その場合『似たる』等は不要な詞である

うしほのこゑ

席題『夏めく、袷、葉櫻』五句吟五句選

水花の芝生や雨に夏めける　長 貴
葉櫻のさゆらぐ池の面かな
葉櫻に來て行く鳥よ朝晴るゝ　欽 一
葉櫻に黄昏のやみくもりけり
葉櫻を透す日ざしや池の面に　石 城
葉櫻の影ゆれてゐるベンチかな
山水の軸に夏めく座敷かな　眞砂常

硯靜抄帳

伊達森里

山寺のぬけ穴道やダラの崩え　（山崎專稱寺）
耕牛のしきり草食ふ揚雲雀　（鎌田）
陽炎や釣り上げし鰡の腹ひかる　（四倉）
鰯賣つくし手を洗ひ居る
山はみなつゞじの花や人醉へる　（松ケ岡公園）

合浦公園所見　本間鷹子
山蝶の大きなかげや芥子の花

靜かさを散りゆく芥子の夕べかな　赤井嶽男
園丁の日燒瞳や芥子の花
女學生語らひゆくや青葉道
湯上りを籐椅子に居るくさめ哉
菖蒲湯に三男の背を撫でにけり　片寄文狂
明け易き一夜の業や蜘蛛の網
其時は其時として初松魚
麥秋やくばれば痴呆も一人前　高久晩霞
地埃りのしるき皐月の露店かな
土蜘蛛を掘る兄弟に晝餉呼ぶ
二軒家を埋めつくして茂かな

葉櫻　渡邊武門
葉櫻の並木に關跡の道嶮し
あくびする汗が葉櫻にふれにけり
汗を拭ぐ櫻關亭や海なども

▽雅信

伊香保にて　石城

今日當地にまゐりました曇り勝であつたが午後には雨で新緑の溫泉も遠望がだめです。明日は晴れるでしせう
溫泉けむりのしみ入る雨の若葉かな

第二信
今日も雨だ、榛名登山もおぢやんで雨の雲をうらめしく眺めるばかり、山地とは申せつゞぢはまだながら滿目若葉青葉となつております
まなかひの溫泉町遠のく雨若葉

新刊紹介

△好況の一途を辿る各會社の業態 東邦政治經濟通信社創立記念叢書第五輯として鈴木昌雄氏の編輯發行に係るもの（目次）京成電氣軌道、東部電力、磐城炭鑛、日本加工製紙、明治製糖、入山採炭、東京電氣、外十四社のアウトラインを記述せるもの（東京、大阪其社）

社會の今日

6月22日 △畑山重忠死す（元久二）△臺灣總督府開廳（明治二八）△山道、古屋兩氏民政黨を去る△米國大統領フーヴア氏全世界の軍備三分の一縮小を軍縮會議に提案（昭和七）

○雨のあと吹きたつ風の涼しけれ、若竹の葉の雫散りつゝ　吉田巖太
素麵に漂ひ細る氷かな　四字路

講談 浪人長屋

(119) 日岐武志作 月草道子畫

友を呼ぶ狼

それでも、尙は起き上らうとしたが
『畜生ッ、まだか！』
と、鐵彌、も一擊をと前へ出て棍棒を振り上げた時である
他の一匹がいつしか後ろへ廻つてゐて
わうッ
と、凄くうなつて、背後から、鐵彌の肩を目がけて飛鳥の如く飛びかゝつた
『あッ、鐵彌さまッ』
魂切るやうに、お蝶は叫んだ
『うぬッ』
鐵彌はそれと知つて、ひらりと體をかはすや
『えいッ』
とばかり打下さうとしたが、その狼はふしぎや、鐵彌の棍棒に打たれる前にもはや雪の上に轉がつてゐたのだ
首のあたりから、血が噴き出てゐる
『あッ、白子太夫ですッ』
お蝶が喜びの聲をあげた
うなりつゝ横たはつてゐる狼の首のあたりから、白蛇がする〳〵と這つて出た
『おゝ、では、お蝶どのゝ白蛇が……』
『白子太夫さん、お手柄です。さあ、あたしのところへおいで』
お蝶は、うれしげに今は安心して古堂から出て來たが、その時である
『あッ、鐵彌さま、あの聲は……』
今まで氣づかずにゐたが無數の狼の吠ゆる聲が四方から林の中を、古堂目指て集まつてくるのであつた
うおーッ……
うおーッ……
右から
左から
岩蔭から
籔の蔭から
早くも鐵彌らの姿をみつけて、不氣味に吠え合ひ呼びかはしつゝ、月光を踏んで集まつてくる狼、狼、狼
一匹、二匹、三匹……
八匹、九匹、十匹……
十餘匹のおほかみが、らんらんたる眼を輝かせつゝ古堂目がけて迫つてくるのだ
雪に降りこめられて、餌物に飢ゑた野獸の群が、深山の林の中を雪を蹴つてやつてくるのである
『あゝ、鐵彌さま、どうしませう……』
すが、氣丈夫の蛇遣ひお蝶ももの凄いおほかみの數をみては、ぎよッとしておぢけついてしまつた
『今のうちに、逃げてしまひませう』
お蝶は、鐵彌の腕に、とりすがつた
『なに、大丈夫ですよ。たかゞ知れた野犬ですよ』
鐵彌は、さりげなくいつてゐたが、さすがに、近づいてくる狼の群から、眼をはづさなかつた
『逃げては却て危險です あなたは、お堂の中へはいつてゐてください。わたしが、一人で追拂つてごらんに入れませう』
『でも、鐵彌さまは、まだ本當のお身體ではないんですもの、風だつて、お直り切れずにおいでなんですもの、若しものことがあつたなら……』
『まア、わたしにまかしておいて下さい、おや、白蛇が、どこかへ行つてしまひました』
『あら、白子太夫が、いつの間にか……』
狼の咽喉もとをかみきつて、見事に倒した白蛇、白子太夫は、いつしか、いづこへか姿を消してしまつてゐた

廣告

大藏省允許
磐城無盡
自力更生ハ無盡から
簡易ノ金融
趣味ノ貯蓄
斷然群ヲ拔ク
共存共榮
誠實堅實
平町電話三七八番

野口英世博士

六月二十一日より公開
全發聲日本版 ナガナ 猛獸映畫
ユニヴアーサル社大作
偉大なり！ 野口博士の映畫化
阿弗利加奥地に猛獸、毒蛇、人喰人種と鬪ひ催眠病研究の尊き犧牲となりし博士を主題とした萬代不朽の名篇
我等福島縣人の誇り 博士は會津翁島の出生なり

平館

磐城家庭婦人會
皆様方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ました どうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
◎會員募集（入會金ト維持費ハ申受マセン）
平町字田町五（元郵便局ウラ）
駒井ヒデ 電話三九九番（呼出）

女子店員募集
年齢十七オヨリ廿三オマデ 高等小學卒業程度
御希望の方は履歴書御持參御來談下さい 委細面談
日東商會 平町二丁目 電話四二八番

難波醫院
內科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平町大町 電話五〇二番
醫學博士 難波睦

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡） 電話五五九番

◆評判で香りのよい
電熱ほうじ茶發賣
一號 一斤六〇 四半斤一五
二號 一斤四〇 四半斤一〇
童謡
大黒ばしらは家の王 お勝手道具は世帶王 大勝園で買つた茶は 茶の間の王よ客間王 父様母様おすきの茶 客のほめる茶喜ぶ茶
平 三大勝園 電九三六番

うちみ ほねつぎ くぢき 專門
正効膏
醫學士 大河內一郎
平町搔槌小路四

魂の這入つた 自轉車
フタバ式リヤカー發賣元
フタバ商會
平・新川町・月見橋際

平ゆべし 一折金十錢
高粱餅（タカラモチ） 一折金十錢
（日滿提携新菓）
賣始めました。
田町 日進堂 電一八六

吸入用酸素 純度99%
モノサシ マス ハカリ
度量衡
計量器
体温器 寒暖計
◎秤ノ取緒・垂糸・修覆致シマス
關內藥局 電話四〇番

寫眞開業披露
最新式夜間撮影
出張は遠近に拘らず無料で參上致します。
目下開業披露として
本月末まで半額にて撮影致します
白銀町松崎デパート
高橋寫眞館

昨終日の土砂降り量 坪當り一石一斗五升餘

小名濱測候所のお天氣觀測

今日は愚圖ついて明日は霽れる

田植え時の水不足に命を縮めた地方農民をして雀躍りさせた昨二十日の雨は降りも降つたり坪當り六十三ミリ（一石一斗五升二合九勺）恐らく六、七十ミリには上るであらう！、と睨んだ小名濱測候所の豫言は物の見事に適中した、之で殆ど完全に當面の水騷ぎを解消せしめた形ちであるが根が梅雨季に在る事とて今後はどうなるか、萬一引續き降られる事になると過ぎたるは及ばざるに若かず、の結果を齎すやも未だ知るべからざるものがある、小名濱測候所今日の打診に曰く

現在の低氣壓は函館南西海上と岩手縣宮古沖合に各五七〇ミリと云ふのが二つに分れてある處へ高氣壓がオホーツク海へ現はれた爲梅雨の形ちとなつて天候の恢復が鈍つたので今終日位は愚圖ついた上明日頃から霽れるであらう。云々とあり、今後連日の雨に水を持て餘す樣な事はあるまいと觀られてゐる

人數を倍加して 郵便速達の試驗

平局で近く實行

平局では曩に一般の要望を容れ市內郵便配達區域を六區に改編所要時間を一時間も短縮したが取扱數の最も多い一號便は午前七時半より十一時迄かゝり遠隔地への遲達甚しいため局では過般來これが改善策を考究の結果近く配達人を約倍加し速達の試驗を行ふことになつたが之が永久的實現は經費關係から困難であらうと當局では惱んで居る

師團長宮 平御通過

第二師團長宮東久邇稔彦王殿下には明後二十三日午前二時二十二分平驛御通過、御東上あらせらるゝ由

女敎員會總會

明後二十三、四の兩日福島市敎育會館で縣總會が開かれ郡支會からは志賀ナカ（平第二）橋本キシ（同第三）の兩氏が出席すると、又第四區同上は來る二十五、六の兩日四倉校で開かれ、平第二校木村ヒデ氏を講師とする遊戲講習會がある

繭を當て込んで 縣稅滯納大整理

八年度分略纏まる

縣稅務平出張所では昨今の春繭出廻り季に際して滯年度分滯納約七萬圓の整理に大童であるが八年度分は賦課總額六十萬八千圓に對し所長以下極力奔走した結果約五十七萬七千六百圓（九割五分）の好成績を擧げたと

奉安庫 奉遷式

平町揚土台上三校の奉安庫奉遷式は來る二十九日

（第一）午前八時—九時
（第二）同九時—十時
（平商）同十時—十一時

の順に縣社子鍬倉神社神官山部政勇氏により擧行

電話簿廣告激增

平局員の熱心活動で 昨年に數倍の好成績

平局で去月二十日より募集中であつた電話番號簿掲載廣告を昨二十日を以つて締切つたが市內七件、市外四件計十一件百六十五圓に上り、昨年の二件三十圓に比し驚異的の好成績を收めたが右は主として經濟界の好調と局員の熱心なる勸誘の結果で當局では餘りの好成績で驚いて居るが一度多數を掲載すれば益々多くなり今後の勸誘は漸次樂になるであらうと喜んで居る

縣下中等校野球に 協賛會を組織

昨夜相談會で決定

本年度縣下中等學校野球大會は來月二十三、四、五の三日間當地で行ふことに決定したので地元關係者三十名は開催地として萬遺漏無きを期すべく昨二十日午後七時よりマルトモホールに第一回打合會を開き協賛會設立を附議決定（會長青沼平町長、副會長石川湯本町長）同會豫算として七百八十五圓（三百圓選手送迎自動車、百二十五圓選手記念品、百圓スタンド建設費、百圓柵建築、六十圓辨當代百圓雜費）を議決したが之が寄附募集方法役員等は後日決定すると

。。。。小學敎員野球　平第一校職員は明後二十三日放課後小川校同上と野球試合を行ふと

貯藏籾監視

米價を崩さぬ樣に 町で各方面へ通知

目下其筋で奬勵の貯藏籾は米穀統制法施行令により平均價格が標準最低價格の上值一割に相當する價格以上になつた場合に限り解除を認める事になつてゐるがこれが解除により米價を崩すが如き狀勢になつては籾貯藏の趣旨に副はぬので大体米價安定の見透しつくまで當分の間解除を認めぬ縣の方針に從ひ平町でも今廿一日これが趣旨を關係各方面に通知した

御齋所改修

地元住民の期待

縣下の難所縣道湯本—石川線御齋所峠は昭和四年以降十萬圓の巨費を投じ約六百間の改修を了し、今年度に於ては六千餘圓を以て石住村字才鉢地內を改修すべく目下平土木監督所に於て設計を急いで居るが尙殘餘二千二百間程あるので玆四、五年を要するものと見られて居り少からず地元民から待望されて居ると

郡下繭市へ資金貸付

四倉、植田へ六萬圓

本縣繭市場に對する中央金庫よりの運轉資金貸付額は二十日四十八萬圓と決定、通牒あつたが本郡關係としては四倉四萬八千圓、植田一萬九千二百圓の最高限度以內で貸付けるものである

出廻六千貫

今日の四倉繭市場

雨に祟られた四倉繭市場昨廿日の取引き相場左の如く出廻り總數白七百七十八貫二百四十匁、黄二十七貫六百九十匁、合計八百五貫九百三十匁

	高	低	駲
白	三五、六〇	三〇、〇〇	三四、一〇
黄	三四、四〇	二八、六〇	三二、四〇

尙今廿一日は昨日の分まで

農産販賣統制協議

農産物販賣統制の徹底を期する縣農會の濱三郡協議會は來る廿五日富岡町農會で開かれるので郡農會では昨廿日各方面に出席勸誘狀を發送した

。。。。郡第二區敎員會　野球大會は來月八日午前八時から湯本校庭に於て開催される

石垣約二十間崩壞

今曉酒井秀次郞氏の損害

平町八幡小路酒井秀次郞氏方石垣は昨日來の大雨のため土壞に弛緩を生じ今曉一時半頃大音響と共に大部分の約二十間が崩壞した、幸に夜半の事とて通行人等無く人畜に被害はなかつたが同垣は以前にも數回に亘り一部の崩壞があつたと

第一懇話會

明日から二日開催

平第一校では明二十二、三の兩日父兄懇話會を催すが午前八時より正午迄授業參觀、校長及受持訓導の懇話等で曩の公開教授以上來校親しく學校に於ける子弟を見て家庭との聯絡に資されたいと、尙ほ同校では今二十一日放課後職員會を催し本年行事を協議、就任半年の校長より學校經營に就て發表あつた

常夏の國から 吉田ポナペ局長

富岡出身　裏南洋講演雜記

上

常夏の國、南洋新開地ポナペ島の郵便局長で過般來双葉郡富岡町に歸省中の吉田定吉氏は平靑年團修養部の懇請によりマルトモホールに於て左記要領の「委任統治の南洋群島」と題する講演、並に座談會を催した

◯

製氷會社の設立によつて初めて物の冷さを意識したと云ふ未開なこの群島も我國の移民奬勵と海外雄飛に自覺した國民の意氣とにより益々開發の一途を辿り月一回の定期航海をはじめ、電信は東京から僅か三十分彼地よりは約三時間を要するに過ぎず、內地との連絡は日を追ふて短縮されて來た、移民團体は輓近愈々增加し、最近の調査によると總計まさに三萬餘名、內沖繩縣人が最多で、關東人之に次ぎ、本縣人が第三位にあるとは海外飛躍の現今に於て何と微笑ましい事ではないか

◯

裏南洋はマーシャル、マリヤナ、ヤップ其他七百餘の群島から成り、面白い事にはマーシャル群島は全島白珊瑚で形成され、鋪裝された路面は雨に曝されるに隨ひ一種形容し難い光澤を發揮して居り、マリヤナは變形な隆起島、ヤップは火山岩より形成されてその色澤は强烈日光の直射に映ねて異樣な輝きを見せ其他の諸島は何れも海鳥の糞が堆積して出來たと云ふ所謂燐鑛島で、風物悉く南洋ならでは見られぬ特異なもののみである

◯

雨量の最も多いポナペ島があると思へば曾ては一桶の水が十錢で賣買されたと云ふ極めて雨の少いマリヤナ島があり、斯く氣候の不順と地質の粗惡なため島民（土人）の多くは何れも商業（砂糖が主要物）或は官吏、漁業（鰹、鮪、加工物として鰹節の製造を主として沖繩縣人が經營）に從事して居る、その日常生活は極めて規律正しく、例へば日曜日の如きは一家揃つて敎會に靜かな安息日を過ごすと云つた風である、手先が巧みで衣服一切はミシンで作り上げ、尙ほ男女共香水を盛んに使用すると云ふ文化とは不似合な身嗜みがある

濱荒しか？

船具所持の怪漢

昨廿日午後四時頃平町南町地內を徘徊する擧動不審男あるを署に連行取調べた處此奴は茨城縣多賀郡關南村字田町二六生れ菊地三郎（三三）で船具附屬品及鉋金等約三十貫を携帶し濱荒し專門の賊らしく目下嚴重取調べ中であると

第一校で鯉を孵化

平第一校では既報の如く學校園により兒童の勤勞作敎育に資して居たが最近發芽期に朝顏、菊等は美事に成長し開花期を期待され、又此程池の鯉が約三千の産卵ありこれによつて孵化の實習を行つたと

傳貧馬四頭

石城産馬畜産組合では今井技手により傳染性貧血牝馬の健康診斷を行つた結果左記疑似四頭を發見した

三坂村大字下三坂根本惣治（三才）澤渡村大字上市萱加藤乘松（四才）永戶村合戶松崎末造（十才）磐崎村藤原鈴木民吉（三才）

渡部長歡迎會

渡部警察部長は平署事務巡閱のため今廿一日午後零時五十五分着來平するので午後六時から住吉屋本店に於て有志發起の歡迎會を催す

電話買ひ度し

姓名在社

評判者の鮮兒三名

平町役場では縣の照會により內地人以外の小學校兒童を調査したが第一校一年生朝鮮忠淸南道生れ李正雄（七）第三校六年生全羅南道生れ鎌田町張文子（二）二年生同邦子（九）の二組三名あり何れも性格溫良で成績もよく殊に文子さんは六十五名中二番で副級長を勤め、邦子さんは五十六名中九番の好成績で附近の評判ものになつて居る

入山の坑內排水は 一滴も要らぬ

玉川村役場で聲明書

（玉川村對入山炭礦の所謂礦毒問題は、其後別段の進展を見せず漸く世人の關心より遠ざからんとしつゝあるやの折柄、玉川村役場は昨二十日付を以て左の聲明書を發表した）

藤原川灌漑水に對する聲明書

—玉川村は入山炭礦の坑內排水は一滴も必要とせず。從て要求もせず。最近の二三新聞紙上に玉川村は旱魃にて水田枯渇し、萬一入山の坑內排水が無ければ八百町歩の水田が田植が出來ず礦毒どころか玉川村は哀訴要求して居る杯と甚しき中傷記事が掲載されて居る、元より會社側の爲めにせんがための放送記事ならんか玉川村は田四百八十町歩を有する純農村で內二百四十四町歩は藤原川、百餘町歩は矢田川及溜池等の灌漑に依り、百三十餘町歩は全然灌漑の便無く三十年來問題となり今回漸く改修に着手した鮫川疏水に依り將來灌漑されるものである。藤原川の水源は湯の嶽にて藤原川、湯川の兩支流の合流點に萬年堰を堰止めて其下流に島堰、袋堰、富岡堰の四堰を以て灌漑し、二百四十餘町歩の田地は入山炭礦開坑以前幾百年間如何なる旱魃にも田植が出來得なかつたと云ふ歷史は一年も無いのである、今更礦毒を含有する坑內排水を要求する必要はない。藤原川支流の上流には藤原、白鳥、西鄕の堰が設けられて旱魃の際は流量は極めて僅少であるが田植が終れば順次上流より下流に分流せられて田植が全部完了せられつゝあるのである。最近の旱魃にて自然水が極く少く入山炭礦の混濁せる排水が多量の爲め萬年堰を始め、其他の堰を堰止めて沈澱し灌漑しつゝあるも農民は礦毒含有量の必然的に增加する事を非常に憂慮して可成堰水を灌漑せぬ樣注意しつゝある、本年の天候は礦毒の被害を實地に調査するに誠に好都合の年と思ふて居るが、今後の天候、即ち降雨量に依る事であるが目下自然水が少く混濁せる坑內排水が多量の爲め萬年堰其の他の堰も十數日前より遺憾乍ら堰を放し放流して居る。群盲象を評する如き說は洵に玉川村の迷惑とする處である。

玉川村は鑛毒を有する坑內排水は一滴も必要とせず、要求もせない。湯本町の下水が湯川に流るゝ丈にて入山炭鑛の坑內排水が湯川に一滴も流さぬと云ふ事になれば累年鑛毒の爲に土壤が荒廢しつゝある玉川村は全然鑛毒が除去せらるゝので玉川村は永遠に非常なる幸福を見る事となる。一日も早く其施設と實現を要望するものである

昭和九年六月二十日
石城郡玉川村役場

內務技師宮本工博來郡

內務技師工學博士宮本武之輔氏は地方災害復舊個所調査のため大石本縣土木課長、外技手縣廳と共に明二十二日原町方面より久の濱水害地を經て來郡江名、小名其他郡內各港灣を視察、湯本町に一泊する

無屆の煙突使用を 拘留廿日に處す

南町ボヤ主の怠慢發覺

昨報—發火の不始末から自家風呂場を半燒した平町南町料理業入船事服部セツは平署で取調べの結果その煙突は無屆使用して居た事判明二十日の拘留に處せられた、尙發火と同時に消火栓で盡力した隣家の料亭松本樓主大谷傳三郎（五七）さんに對しては同署から近く表彰方を上申する筈である

。。。。川前村桶賣馬市　來月四日より三日間開設、三日は

木村重儀氏長逝

平商敎諭木村重儀氏は[illegible]般來病氣の爲休職靜養中だつたが十八日午後一時長逝した、行年二十六才、明二十二日好間村中好間の自宅に於て佛式により告別式を執行する

。。。。失火男に罰金　赤井村大字西小川松崎美松（三三）に係る失火事件は今二十一日午前九時から平區で中島判事吉岡檢事係り公判開廷、略式に於ける求刑通り罰金二十圓を言渡された

。。。。賭博に懲役刑　昨報—小名濱町定西鮮魚行商前科一犯渡邊大五郎（三七）湯本町向田無職前科五犯越智新一（四二）に對する賭博事件は今二十一日午前十時から香西判事、吉岡檢事係りで求刑通り渡邊は三月、越智は五月の懲役を言渡された

。。。。古物商怠ける　平町鍛冶町二二古物商泉文次郞（五四）は去月八日內鄕村大字白水字大神田一九戶田市助方で同人內緣の妻樋口フサ（三三）

挨の巻

平第二校では既報の如く校內に頌德簿を設け兒童の善行表彰に資してゐるが中には

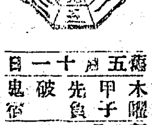
〇〇さんは家でお母さんが每日病氣でねて居るので澤山ゐる弟たちをよく面當を見て居ます、親孝行だと思ひます。

××さんは裁判所の前でお酒によつた魚やさんがお魚を落して困つてゐる時拾つてやりました。

等々一日一善式善行がドシ〲報告されるので係職員も成績良好と喜んで居ると

二十二日

日出 四、二五　月出後 一、四一
日沒 七、〇〇　月沒前 〇、〇二
滿潮 前 〇、〇五　後 一、三〇
干潮 前 七、三〇　後 七、一〇



舊五月十一日
木曜　甲子　先負　破　鬼宿
新六月二十二日

諸判定謹從
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　諸事動搖の兆あるものなれば愼重を尙ぶ日▲二黑の人　油斷なく方策を樹つれば大業を遂ぐべし▲三碧の人　大業を企てんよりは小成に安んずるが吉し▲四綠の人　人に期待をかければ落膽あり自力にて進め▲五黃の人　進まぬ氣をも勵まして奮鬪すれば效果揚る▲六白の人　蟻の一穴より大崩落を生ずるが如き日注意▲七赤の人　坂路を下る重き荷車の如し樂な樣にて危險▲八白の人　勇奮は大事をも遂ぐ起業開店名弘め皆な吉▲九紫の人　物事に移り氣多くして成就せぬ日本業を守れ

賣家
新田町中央目拔きの場所
二階 六間
階下 四間
希望者御來談を乞ふ（姓名在社）

開業
內科一般
川井安子
川井內科診療所
平町南町六五（舊居）
電話二四三番

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
入院隨時
病室備完
（看護婦見習一名入用）
醫學士 山內亨吉
山內醫院
電話六九一番